

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：12614
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2013～2015
課題番号：25370277
研究課題名(和文) アメリカン・ルネサンス期の小説と大西洋奴隷貿易

研究課題名(英文) American

研究代表者

大野 美砂 (Ono, Misa)

東京海洋大学・東京海洋大学・准教授

研究者番号：30337711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、主にヨーロッパとアメリカの関係に焦点を当てる従来のトランスアトランティック研究を発展させ、アフリカやカリブを含めたより広い大西洋のコンテキストの中でアメリカン・ルネサンス期の文学作品を分析することである。ホーソーンに関する研究では、船乗りだった先祖の仕事と大西洋奴隷貿易の関係をホーソーンが認識していたことを証明し、その影響が『緋文字』などの作品に見られることを明らかにした。メルヴィルについては、作品に描かれた航海と大西洋奴隷貿易の関係を研究した。ストウについては、『アンクル・トムの小屋』などの作品におけるハイチやリベリアの表象の重要性を指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes literary works of the American Renaissance for the purpose of widening the context of transatlantic studies by including Africa and the Caribbean. The study of Nathaniel Hawthorne proves that he knew the Salem mariners, a job which his ancestors had, and the slave trade were connected. This recognition is revealed in the descriptions of the mariners and commercial activities in "The Custom-House" and The Scarlet Letter. The study of Herman Melville's works reveals the connection between the voyages and the slave trade. The study of Harriet Beecher Stowe clarifies the significance of Haiti and Liberia in her works such as Uncle Tom's Cabin.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：大西洋奴隷貿易 ナサニエル・ホーソーン ハリエット・ビーチャー・ストウ ハーマン・メルヴィル
セイラム ナンタケット ハイチ リベリア

1. 研究開始当初の背景

今世紀に入り、トランスアトランティックな視座からアメリカ文学を分析する研究が盛んになり、より広い地理的枠組みの中でアメリカ文学を捉える必要性を主張する研究が次々と出された。例えば、Paul Giles の *Transatlantic Insurrections: British Culture and the Formation of American Literature, 1730-1860* (2001) や *Virtual Americas: Transnational Fictions and the Transatlantic Imaginary* (2002) は、世界規模での人や物、思想の動きの中でアメリカ文学が形成されたことを明らかにした。

アメリカン・ルネサンス期の小説についても、ヨーロッパとアメリカの関係に焦点を当てた研究が多数出された。ハリエット・ビーチャー・ストウについては、*Transatlantic Stowe: Harriet Beecher Stowe and European Culture* (2006) など、『アンクル・トムの小屋』の出版がヨーロッパの奴隷解放運動に与えた影響、ストウのヨーロッパ訪問が彼女の作品に及ぼした影響、ストウと同時代のヨーロッパの作家の相互関係など、ヨーロッパとアメリカという観点からストウを分析する研究が出た。ナサニエル・ホーソンについても、ヨーロッパとアメリカを中心にしたトランスアトランティックな視点からの研究がいくつかあった。例えば、ホーソン生誕200年を記念してオハイオ州立大学から出版された論文集 *Hawthorne and the Real: Bicentennial Essays* (2005) の中には、ホーソンのヨーロッパ滞在が彼の作品に及ぼした影響や19世紀半ば前後のヨーロッパにおける革命がホーソンの作品に及ぼした影響を考察する論考が入っている。

しかし、アフリカやカリブを含めたより広い大西洋という視点からアメリカン・ルネサンス期の小説を分析した研究はほとんどなかった。作品における黒人の表象を分析した研究は多数あった。*Romancing the Shadow: Poe and the Race* (2001) は、エドガー・アラン・ポーの作品における黒人の表象を研究した書であるし、ホーソンについては、Jay Grossman が論文 “A is for Abolition?: Race, Authorship, *The Scarlet Letter*” において、一見人種の問題とは無関係に見えるホーソンの作品に人種の問題への暗示が見られることを指摘してから、ホーソンと人種の問題に関する論数が多数出された。しかし、アフリカやカリブを含めたトランスアトランティックな移動や交流という観点から作品を分析したものはなかった。

そこで本研究では、ヨーロッパ、アフリカ、カリブ、アメリカを結んだ大西洋奴隷貿易がアメリカン・ルネサンス期の白人作家の小説に及ぼした影響に注目することで、これまでヨーロッパとアメリカの関係のみに焦点が当てられてきたアメリカン・ルネサンス期の文学に関するトランスアトランティック研究に、アフリカとカリブという視点を導入す

ることを目的とした。

2. 研究の目的

本研究は、ヨーロッパ、アフリカ、カリブ、アメリカを結んだ大西洋奴隷貿易がアメリカン・ルネサンス期の小説にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすることを目的とした。具体的には、大西洋奴隷貿易に関する基本的な事象を明らかにすること、大西洋奴隷貿易がアメリカン・ルネサンス期の白人作家の作品の中でどのように描かれているのか、あるいは描かれていないのかを検討すること、それがアメリカ的とされるものの形成にいかなる役割を果たしているのかを考察すること、アフリカ、カリブを含めた大西洋世界での人、物、思想の動きがアメリカン・ルネサンス期の小説にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすること、を主な目的とした。

3. 研究の方法

(1) 文献を使つての研究

トランスアトランティック研究、特にアフリカやカリブを含めた大西洋世界に関する研究書 (Paul Gilroy の *Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness* (1993) など) を精読することで、最新の研究動向を正確に理解するよう努めた。

大西洋奴隷貿易についての基本的な事象を理解するために、関連する研究書 (James Rawley の *Transatlantic Slave Trade: A History* (2005) など) を読んだ。

研究する作家と関係のある海や商船の活動の記録を入手し、分析した。ホーソンについては、ホーソンや彼の先祖と関係の深いセイラムやマサチューセッツの海や商船に関する資料 (Samuel Eliot Morrison の *The Maritime History of Massachusetts, 1783-1860* (1961) など)、メルヴィルについては、ホーソンで使用した資料のほか、ナンタケットや捕鯨貿易に関する資料を読んだ。ストウについては、ハイチ革命に関する研究書 (David Geggus 編集の *The Impact of the Haitian Revolution in the Atlantic World* (2001) など) やアメリカ植民協会に関する研究書を読んだ。

作家の伝記や日記、手紙から、作家と大西洋奴隷貿易の関係を示唆する記述を探した。

ホーソン、メルヴィル、ストウの作品を、アフリカやカリブを含めたトランスアトランティックな枠組みの中で捉え直した。

(2) 資料収集・情報交換

アメリカでの資料収集については、2013年度にはボストンとセイラムを訪問し、ボストン公立図書館やセイラム歴史協会などで、ホーソンや彼の先祖と関係の深いセイラムやマサチューセッツの海や商船に関する資料を収集した。2014年度にもボストン

に行き、ハーヴァード大学図書館やボストン公立図書館、マサチューセッツ歴史協会で、主にカリブ海やハイチ革命に関する資料を入手した。2015年度はボストンを拠点にハーヴァード大学図書館などで資料収集を行ったほか、ナンタケット島での調査で捕鯨に関する資料を入手することができた。

国内では、毎年5月には日本ナサニエル・ホーソン協会全国大会と日本英文学会、8月にはエコクリティシズム研究学会、10月には日本アメリカ文学会全国大会に参加し、研究成果を発表したり、他の研究者の発表を聞いたりしたほか、東京で行われた学会の支部研究会にも参加し、他の研究者との交流の中で、本研究に対する貴重なコメントや情報を得ることができた。

4. 研究成果

(1) 2013年度は、18世紀末から19世紀半ばの大西洋奴隷貿易に関する基本的な事象を理解するとともに、ホーソンの船乗りだった先祖たちの仕事に関する資料を集め、ホーソンの先祖の仕事が大西洋奴隷貿易と絡んでいたこと明らかにし、その影響が『緋文字』などの作品に見られることを検討した。研究の成果は、論文「ホーソンと船乗りたち 環大西洋奴隷貿易との関連をめぐって」にまとめ、それが論集『アメリカン・ルネサンス 批評の新生』(開文社、2013年)に掲載された。論文では、セイラムが国際貿易港だった頃の記録、ホーソンの父親の航海日誌、ホーソンの伝記などを分析することでホーソンが奴隷貿易について詳しく知っていたことを証明し、それが「税関」や『緋文字』の船や船乗り、商人の描写に影響を及ぼしたことを指摘した。

2013年度にはまた、エコクリティシズム研究学会で「21世紀のエコクリティシズムの実践」と題する特集をジャーナルに発表する企画に参加した。その企画の一つとして、本学会8月の大会の『アメリカ文学 エコクリティシズム特集号』に関するシンポジウムで司会と発表を行い、本学会のジャーナルでは惑星思考に関するヘスター・ブラムの論考の紹介を執筆した。

(2) 2014年度には、ハイチ革命やアメリカ植民協会に関する資料、ストウの作品、特に『アンクル・トムの小屋』やそれに関連する批評を読んだ。研究の成果は、論文「『アンクル・トムの小屋』とアメリカ・ヨーロッパ・ハイチ・リベリア」にまとめ、それが論集『越境する女 19世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』(開文社、2014年)に掲載された。論文では、ストウの『アンクル・トムの小屋』をカリブやアフリカを含むより広い大西洋のコンテクストから読み直し、この作品がヨーロッパとアメリカにおける奴隷制廃止運動の提携関係を強化することに貢献した一方で、ハイチ革命の影響がアメリカに及ぶの

を排除し、アメリカ植民協会の政策を推奨することで、大西洋世界における帝国主義的なアメリカの秩序を補強していることを明らかにした。

メルヴィルについては、作品や批評を読んだほか、12月の日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部会で David Greven の *Gender Protest and Same-Sex Desire in Antebellum American Literature* のメルヴィルを論じた章についての発表をし、その内容を書評として同学会のジャーナルに執筆した。

(3) 2015年度には2014年度に続き、メルヴィルの作品をトランスアトランティックな枠組みの中で捉え直した。メルヴィルの作品に描かれた航海と大西洋奴隷貿易の関係について論文にしたいと思っているが、まだ解決していない問題があり、もう少し継続して研究を行い、近い将来に研究結果を発表したいと思っている。

2015年度にはまた、3年間で研究した大西洋奴隷貿易に関する資料を使って、ホーソンが南北戦争中に書いた作品を分析した。研究の結果は、論文「ホーソンの戦争批判

晩年の作品を中心に」と論文「『ナショナルな風景の解体』 ホーソンの『主として戦争問題について』をめぐって」にまとめ、前者は論集『ホーソンの文学的遺産』(開文社、2016年)、後者は『エコクリティシズム・レビュー』第9号(2016年8月出版予定)に掲載された。これらの論文では、ホーソンが南北戦争中に書いたエッセイや未完のロマンスに焦点を当て、奴隷制度をめぐって対立した南北戦争に対するホーソンの見解を考察した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

大野美砂、「『ナショナルな風景』の解体 ホーソンの『主として戦争問題について』をめぐって」、『エコクリティシズム・レビュー』、第9号、2016年(8月出版予定)

大野美砂「書評 David Greven, *Gender Protest and Same-Sex Desire in Antebellum American Literature*」、『フォーラム』(日本ナサニエル・ホーソン協会)第20号、2015年、35-40ページ。
大野美砂、「総論『アメリカ文学 エコクリティシズム特集号』」、『エコクリティシズム・レビュー』、第7号、2014年、95ページ。

大野美砂、「ヘスター・ブラム『ジョン・クリーブス・シムズと極地探検における惑星思考の領域』」、『エコクリティシズム・レビュー』第7号、2014年、96-98ページ。

大野美砂、真野剛他 3 名「エコクリティシズムの名作 Paul Outka, *Race and Nature from Transcendentalism to the Harlem Renaissance*」、『エコクリティシズム・レビュー』第 6 号、2013 年、70-77 ページ。

〔学会発表〕(計 6 件)

大野美砂、「ホーソン晩年の戦争紀行文に描かれたアメリカの風景」エコクリティシズム研究学会第 28 回大会シンポジウム、2015 年 8 月 8 日、広島市立大学。

大野美砂、「ホーソンと戦争 晩年の作品を中心に」日本ナサニエル・ホーソン協会第 34 回全国大会シンポジウム、2015 年 5 月 23 日、日本大学文理学部。

大野美砂、「ホーソンの戦争批判 後期の作品を中心に」日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部研究会例会、2015 年 3 月 21 日、日本大学理工学部。

大野美砂、「David Greven, *Gender Protest and Same-Sex Desire in Antebellum American Literature*」日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部研究会例会、2014 年 12 月 13 日、専修大学。

大野美砂、「Robert Milder, *Hawthorne's Habitations: A Literary Life*」日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部研究会例会、2013 年 12 月 14 日、専修大学。

大野美砂、「*American Literature* のエコクリティシズム特集号をめぐって」エコクリティシズム研究学会第 26 回大会ワークショップ、2013 年 8 月 10 日、広島修道大学。

〔図書〕(計 3 件)

大野美砂、「ホーソンの戦争批判 晩年の作品を中心に」成田雅彦、西谷拓哉、高尾直知編著、『ホーソンの文学的遺産 ロマンズと歴史の変貌』、開文社、2016 年、403-20 ページ。

大野美砂、「『アンクル・トムの小屋』とアメリカ・ヨーロッパ・ハイチ・リベリア」倉橋洋子、辻祥子、城戸光世編、『越境する女 19 世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』、開文社、2014 年、165-81 ページ。

大野美砂、「ホーソンと船乗りたち 環大西洋奴隷貿易をめぐって」西谷拓哉、成田雅彦編、『アメリカン・ルネサンス 批評の新生』開文社、2013 年、215-31 ページ。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 大野 美砂
(ONO MISA)

東京海洋大学・海洋科学技術研究科・
准教授

研究者番号：30337711

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：